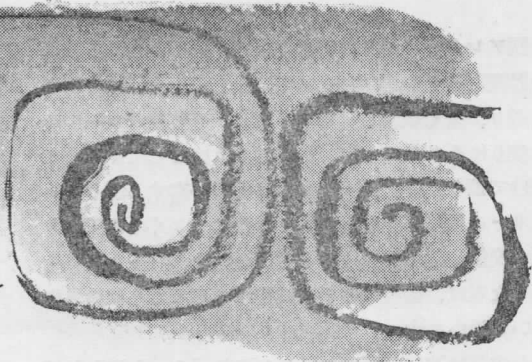


会報 THE ROTARY CLUB OF TSURUOKA



松田美枝さん 絵

第214回例会 1963.9.3 (火) 曇

例会場 鶴岡市一日市町 ひ さ ご や (707番)
事務所 鶴岡市馬場町十日町口 商工会議所内 (1563番)

Person to Person
Club to Club
District to District

小池 繁治君・ 皆川つやさん
菅原 主純君・ 荘司貞恵さん
金井国之助君・
渡部 勝美君・

次回例会予定

9月10日(火) 公式訪問時の所感 会長、各委員長
9月17日(火) 鶴岡の織物 岩網末松君

○ガバナー公式訪問 村上正徳氏

○出席報告

本日	出席数	44名	欠席者	高橋君、田中君
本日	出席率	95.83%		
前回	出席率	81.25%	メ	金井(勝)君(山形R.C.)
修正	出席数	41名	ク	小花君 (酒田R.C.)
出席	修正出席率	89.58%	ツ	新野君 ()
			ブ	佐藤(仁)君(本荘R.C.)

○司 会 池内 会長

○ソ ン グ 奉仕の理想 リーダー 広瀬君

○ビジター

和島 茂兵工君 (酒田R.C.)
大場 正己君 ()
菅野 和助君 ()

○連絡事項

○9月の会員誕生 奥様の誕生
池内 方平君・ 三井 糸さん
手塚 林蔵君・ 三井 順子さん

○8月100%出席者

阿部君、安藤君、張君、早坂君
広瀬君、飯白君、池内君、石井君
石黒君、五十嵐(三)君、五十嵐(伊)君、海藤君
金井(勝)君、金井(国)君、小花君、小池君
嶺岸君、三井(徹)君、三浦君、皆川君
中台君、斎藤(栄)君、斎藤(得)君、佐藤(伊)君
佐藤(仁)君、佐藤(昇)君、荘司君、鈴木君
新徳君、田中君、手塚君、辻君
鷲田君、吉村君、新野君 36名

○鹿兒島R.C並びに鹿兒島南R.Cよりバナー贈る
尚鹿兒島西R.Cよりは創立早々のためバナー出来
ていないので後日送るとの挨拶状を頂きました。

○国際奉仕委員会的小花君並びに張君よりニューブラン
ズウィックのクラウ博士よりの書翰並びにペルー
国アレキパのハラダ会長より佐藤前会長宛の親書を
翻訳発表された。(訳文別掲)

○公式訪問を終えて ガバナー 村山正徳氏

昨日当地を訪ね、クラブアツセンブリーを開いて頂き
会長、幹事を始め各委員長の今年度活動計画を中心に熱
心に種々お話を承りました。こゝに皆様のお元氣な姿に
接し、当クラブの充実した並々ならぬ御活躍に敬意を表
して居ります。特に当クラブ国際奉仕委員会の御活躍は
他に比較を見ない立派なもので、私から何も申し上げる
必要がないと思います。

当例会においても小花君より発表されたニューブラン
ズウィックからのお便り、更に張君よりお話のあつたべ

ルー国アレキバよりの御通信など、いづれもミラー会長の計画たるクラブ対クラブの活動方針を立派に実行されて居り、全く敬服しました。この御活動はクラーク博士のお便りにもあるように、絶えざる友情として何時までも続けて頂きたい。吾々の友情は地球が存する限り、ロータリーの歯車が止まらぬ限り永遠につづくものであり手紙の交換や物の交換を介し友情を深め、好意と親睦を深めるならば、国際間の平和に寄与するところは非常に大きいと思います。

また本日は遠い鹿兒島のクラブよりバナアを送られて参り、過日当クラブの代表が鶴岡と縁の浅からぬ鹿兒島市を訪ね親善を深めて来た結果と知り、大変嬉しく思います。遠い南北のクラブが互いに手をつないで居られることは、まことに喜ばしいことです。

ミラー会長の方針により地球の裏表の地区と地区が交換するという見地よりわが352地区はオーストリーの181地区と手をつなぐことになつて居ります。当クラブにおいても今までの姉妹クラブや親交クラブとの交換を深めると共に、181地区とも折に触れ交換されるようお願い致します。幸い、来年は斎藤副会長が欧米旅行の予定と、是非181地区のロータリークラブをお訪ねするよう希望します。ガバナアとしても御便宜をはかるよう出来る限り御支援致したい。

私がアメリカに行つて感じたことは、日本の二世三世が日本語を忘れても母国へのあこがれ乃至関心は非常なもので、至るところで誠意溢れる歓待を受け、是非日本を訪ねたいと会う人のすべてがそんな気持のようでした。好意と友情を深める個人対個人の交換もあらゆる機会をつかまえ推進して頂くことが大切です。世界中に好意と友情が広まれば戦争など起りません。今後は国際奉仕の部門だけでなく、理事会並びにクラブ全体が共に一層の御活躍を期待致します。

○一日講習会に出席して (第二報)

(職業分類委員長 大野君の報告)

先程会長より詳細な報告があつたので、私は直接関係のある職業分類について申し上げます。

分類表にのつていない職業、例えば米国には味噌醬油の職業が無いように、その国情に独特な職業があるのでこれ等も適宜整理して採用しても差支えないそうです。

新会員の加入について、今までロータリアンであつた人で転勤により前任者もロータリアンであつた職の場合でも、14段階のルールは厳正に踏むべきである。但し、必要とあれば一日で委員会やら理事会を開いて速かに決定することも可能である。また第二クラブの誕生は都市の人口には関係なく、クラブのメンバー或は地域社会の状況によつて決定されるとのことです。

(会報委員長 石黒君の報告)

新会員の私が一日講習会に出席する光栄を与えられ、ロータリーの如何なるものかの一端を勉強出来ましたことは、大きな感銘と将来への勇気を与えて頂きました。

会報は例会の出来事や卓話を正確にのせるだけでは単なる記録となるに過ぎないし、またクラブだけで独善的に作つては地方団体の機関紙となつてもロータリー会報とはなりません。会報はあくまでもロータリーのルールに従つて編集され、特にロータリー情報を重視してロータリーの機能向上につとめることが大切です。また切角努力した会報でもよく読んで頂かねば意味がなくなるので、興味をもつて読んで頂くには何うすればよいか研究してもらいたい。編集者だけの班別会議では数々の具体例を挙げ、互いに意見の交換があり、他のクラブ会報を知る上に有効な資料となりました。

○海外通信

○Mr. and Mrs. Joseph H. Klerより

Dr. and Mrs. Kohana 宛

私達が皆さんにお逢いしてから随分長い時が経ちましたが、鶴岡の親愛なるお友達については今も尚語り合つて居ります。

私達は鶴岡では素晴らしい時を持つたのですが、その時の心暖まる沢山の思い出をしつかりと心にだいて居ります。

私は今貴方に一冊の書籍をお送りしましたが、更に医学雑誌も贈る様に予約申込を致し度いと思つて居ります。又カラスライドを張先生宛に送つてありますが、それらの写真はニューブランズ・ウィックについての貴方の思い出を更に新たにする事と存じます。それ等の写真を御好覧頂ければ幸いです。

小生の妻は三ヶ月前から体の調子が悪く、急性内耳炎を起して非常に強い眩暈がありました。一ヶ月間と云うものは歩く事も困難で、動作は緩慢にしか出来ません。之は妻をいたく失望させましたが、重篤と云う程でもないのでせめても喜んで居ります。今しばらく時をまてば漸次妻の望む程度の活動性ももちうる様になる事でしょうし、そして貴方と一緒に歌を唄うことも出来る様になるでしょう。

我々のロータリークラブは相変わらず積極的な活躍を続けて居ります。私は彼等に皆さんの事をきちんきちんと報告して居りますが、貴地の学生生徒達の美しい絵画を頂いた事を大変有難く思つております。

私はそれを当地の公立学校の美術担当の先生に贈りましたから当地の学童のみんなに展覧する事と思ひます。そして彼等も貴地の生徒のみなさんに又寄贈するものと信じますし、私達もそうしたいと思つて居ります。どうぞ貴地の生徒さん達や美術の先生に御礼を云つて下さい。

これはほんとうに素晴らしくそして意義深い計画です。

私が鶴岡を訪問した時に前にお贈りした当地の学童達の絵画が展覧されているのを見て来た話をした時には、当地の学童達は非常に喜んでくれました。

私達は之等の心からなる友情の触れ合いをいついつまでも長く続けなければならぬと思います。

皆様の御健康と御多幸を心からお祈りして。

1963年8月9日 ジョセフ・クラール夫妻より

○Senor Marcos Saiki Haradaより

前会長 佐藤伊和治君宛

1963年3月13日付

尊敬する会長さん。国際ロータリーの世界相互理解週間が行なわれるのを機会に、また日本の国際的な友として、アレキパクラブのメンバーに心からの挨拶をおくる目的でお手紙を差上げるのは私の大きな喜びです。

私も日本人を両親にもつ者でありながら、残念ながら日本語で書くことが出来ず、スペイン語でかくことをお許し下さい。

私はロータリーに入つて、もう十三年ですが、その間に理事会で色々の仕事をし、1960年にはこの会長となり、会計担当者の代理もつとめ、1963年から1964年まで国内総務委員会の会長にも選ばれたのですが、そうした訳で同じロータリーの仕事をしておられるロータリー会員の方と文通することは喜ばしいことなのです。

この前、東京であつた世界全体会議に出席し、各国の多数の会員との友好を楽しみながら大変喜ばしい時を経験した次第ですが、その折私自身も血の通つた子孫であり、又当然のことでもありますが、貴国に見られる大きな進歩の衝動には深く打たれました。日本の人々の親切と礼儀正しさとは全く私の心を惹きつけましたが、この大会に列席した会員にもきつとよい結果をもたらしたに違いありません。そしてたしかに大きな尊敬と打消し難い想い出の痕跡をのこしたのです。

アレキパはペルー第二の大都市でペルーの南部に在り、海拔2,300米のところにあります。25万の人口があり、気候は乾燥し空気が殆んど1年中青く晴れています。3つの火山に囲まれ、その1つは、山頂が富士に大変よく似ていますが、ミスター（神秘）山と呼ばれています。私共のクラブだけで45名の会員がおり、ツーリスト・ホテルで毎火曜日に例会をしています。

何の機会にか貴方のクラブの会員誰でも私の国を旅行されるようなことがあれば是非お立寄り下さい。ただ首都のリマから飛行機で2時間半の距離がありますが、大喜びでお待ちいたしております。この機会に私のクラブ全員、特に私からの挨拶をお受け下さいませ。 敬具

サイキ・ハラダ・マルコスより

SENOR

MARCOS SAIKI HARADA

SAIKI HERMANOS

SANTO DOMINGO 130,

P.O.BOX354

AREQUIPA-PERU

〇一人一筆 愛と奉仕

池内方平

最近の世相は戦前と比較して余りにも変り方が甚しいので、吾々は之を只時代の流れとなかばあきらめて是からの世相の推移を見守りつゝ自分達も亦之に追隨して行く様に考え方を改めるより仕方がないと考えて居られる方々が多いと思う。

吾々戦前派に属する者は明治、大正時代に教育勅語を日本人の道徳の柱として忠君愛国、親には孝と云つた思想の下に教育されて来たのであるが、戦後は是等の昔の柱は完全に取除かれて新憲法と民主主義を二本の柱として新しい社会作りを勉めて来た積りであるが、現在の世相はそうではなく世の中の人々の考え方は自分に都合の良いことは新憲法だ民主主義だと之を盾として自己を主張するが、都合の悪いことは吾閉せずと云つた態度で振舞う故折角の民主主義も戦後18年経つても一向に成長せず、自己の権利は100%主張するが義務に至つては知らぬ振りをする云つた利己主義と履き違えた思想が支配的となつて居ると言つても過言ではないと思うのである。

正義派

そこで現代青少年の物の考え方について少し考察を加えて見たいと思います。斯の如く世相は変つたが、世の親の自分の子供に対する考え方は戦前も戦後も殆んど変りなく、自分の子供の為にはひたすら子供が立派に成長してくれることを願い、自分の生命の消耗を忘れて子供を育てるのであるが、子供は親のそれ程の労苦に対して無関心である様に見受けられる。勿論子供がまだ幼年時代であればそれも致し方ないと思うが、子供が既に18才以上ともなれば一人前の成人として考えても良い年齢であるが、それにも不拘次の様な言をお聞きになつた方々も多いと思うのであります。之に対し皆さんは如何に御考えでしょうか。「親は勝手に子供を生んで居るので子供を育てる義務はあるが、子供は頼んで生んで貰つたのではないから親を扶養する義務はないではないか」と平然と放言している。是は青年諸君の総てがそうであると思いませんが、少くとも青年期の思想の一半を表現して居ると考えて間違いないと思う。然し此放言も良く考えて見れば必ずしも放言とのみ言い切ることも出来ない点もある。確かに理由のあることは認めざるを得ないと考える。私はそれで此放言に対し理論付けしなければ理解出来ないので私なりに考察を加え理論付けをして見たのであるが、之に対し皆さんの御批判を戴きたいと思

うのであります。

吾々人間社会で言う愛には広義の愛と狭義の愛とに分けることが出来る二つの愛があると思う。親が子供に対する愛は狭義の愛で本能的愛である。私共ロータリアンが常に口にする奉仕の理想は広義の愛である。私共戦前派が教育されて来た忠君愛国の精神も亦広義の愛と解せられると思う。

親は何故に自分の子供に対し斯の如く本能的愛が無制限に注がれるかと云うと之は人間の生命と云う本質に触れることになるが、子供が生まれることは申すまでもなく新らしき生命の誕生を意味し、親の生命の延長であることは皆さんも御理解下さることと思う。親は生れた子供に対しては無意識的に自己の生命を未来に永遠に延長する為に本能的に新らしき生命の創造に身を捧げて子供を生み、生まれ出た子供に自分の全生命を傾けて之を育て教育し、子供の成長を願うと共に守りつづけるのが自然の姿である。之は自分の生命の延長が永遠に延びる為の立派な条件を具備することを願っているからで、此の親の本能は他から強制されて出来るものでもなく、意識的に仕くものでもなく、自然に備わっているものである。

然るに其の子供は親の苦勞に対しては殆んど感受性なく、只子供は自分の成長期に於いては親を必要とするので、其の間は親を慕うのであるが、其の後或程度成長すると親の必要性が次第に薄れて行くと共に自然に独立心が強くなり、親から離れんとする傾向を帯びて来る。其の頃になると子供は自分を一人前の大人として自己を自覚し、過去に親がしたと同様に子供も亦次の新らしき生命の創造に本能を燃やし、其の力は日に増し強くなつて行くものである。そうなると子供は自分の生命の源である両親を顧みる事よりもつと強い力、それは新らしき生命の創造へ向かつて行く生理的本能的力に支配されて行くのであります。それと共に自分の母体である親でさえ新らしき生命に対する魅力に比較すれば問題にならない程魅力のない存在にしか親は見えなくなるものではなからうかと考えるのである。此法則は人間以外の万物に於いては一層甚しく新らしき生命の創造を終わった母体は其の後に急速に体力は衰え、幾ばくもなく余命は消えうせるのが自然界の現象の様に見える。

然るに人間の場合は新らしき生命の創造が終つてからも20年30年と永きに亘り親は生存するので、親子関係は逆に子供が親を扶養しなくてはならない様な状態になることが起り、自然界に例のない例外が起るので、人間社会に六ヶ敷い家庭関係を引き起しているのである。自然界の法則を直視すれば、私共の考え方より某青年の放言の方が正しい様に思われてならないのである。

それでは是からの社会は親が子供の世話にならなくても余生を安楽に過ごして行ける様に社会保障制度の確立を急ぐべきであるとする次第である。是が将来の社会の在り方ではないかと思う。又一方社会保障に頼らずと

も出来る人は、自分で其の準備を進めて行くことも出来るから心掛けて行くべきである。そればかりでなく、親は子供を育て一応の教育を終わり、社会に出してやつた後は親は子供の将来については一切の援助の手を打ち切つて、子供は自力で自分の生活を確立する独立心を持たすべきである。親として子供に対する義務を果たした親は自分の余生を充実する為自分の生活の準備は勿論のこと、尚余力があればロータリー精神に表現されて居る社会奉仕に余生を捧げられることも亦人生の生き甲斐を感じると同時に、幸福に充ちた人生ではなからうかと思う次第です。

大変長々と愚論を書き綴りましたが、私なりの考察の一端を書いて皆様の御批判を乞う次第であります。

○友人をつくるために出席を

人目につくショー・ウィンドーを持つていながら、人が入らないようにドアに鍵をかけておく実業家を貴方はどう思いますか。ロータリーに所属してクラブ名簿に名前を列記し、例会に欠席して面識のドアに鍵をかける人は、これとほぼ同じことをしているのです。

題図作者紹介

今回より会報題図を松田美枝さんにお願ひしました。

松田さんはトキワ屋さんの御令嬢で昭和36年鶴岡南高校を卒業、現在多摩美術大学在学中の新進画家で将来を期待されています。

これから毎月新しい図案を提供して頂くことになりました。

○幹事報告

○会報到着 東京R・C

○創立五周年記念親睦号を東京西北R・Cより送付

○ニコニコ箱

御誕生を祝して

池内君、手塚君、
金井(国)君、菅原君、
小池君、渡部君

奥様のお誕生を祝して

三井(徹)君、三井(賢)君
皆川君、莊司君

Dr. Kler氏より医学辞書を頂いて

張君

南高校設計料の全額を母校へ寄附と紹介され

新徳君

○本日の献立

トンカツ、ハムサラダ、ライスカレー